

神奈川県 愛川町 高齢介護課・地域包括支援センター 様

住民サービス向上と職員のWell-beingの両立

令和 6 年度

オフィス改革

窓口改善

新庁舎

Topics

令和 7 年 1 月現在

プロジェクトの詳細

改修完了	： 令和7年1月6日
人 口	： 約39,400人
対象人員	： 22人
対象面積	： 約200㎡
建物概要	： 地上5階 地下1階
委託業務	： 令和6年度愛川町役場 本庁舎1階レイアウト等改善 業務委託



内装工事

愛川町を流れる中津川をイメージしたカーペットの貼り分けにより、視覚的に動線を明確化することで、カウンターとの適切な距離を保ち、プライバシーに配慮しています。



相談カウンター

緩やかな曲線の形状、木目のカウンターを採用し、温かみのある空間を構築。利用者のプライバシーに配慮し、セグメントパネルを配置。



全景

自然豊かな愛川町をイメージした空間デザイン。来庁者のプライバシーと利便性に配慮すると共に、職員の働く環境の改善も実施し、双方の満足度の向上を実現。

愛川町では、町民や来庁者にとって分かりやすく、安心して利用できる窓口空間を目指し、令和7年1月に本庁舎1階の高齢介護課エリアを改装しました。この改装では、窓口カウンターやサイン表示の見直し、執務環境の整備に加え、隣接する水道事業所スペースを活用し、幅広い来庁者が利用できる憩いの場「ふれあいラウンジ」を新設しました。

内装や家具には、バイオフィリックデザイン(自然要素を空間に取り入れることで、心理的、身体的な健康をサポートし、快適さを向上させることを目的としたデザイン)に基づき、自然豊かな愛川町をイメージした配色や素材を採用し、さらに、エリア全体にオフィスグリーンを取り入れることで、来庁者や職員にリラックス効果をもたらし、ストレスを軽減する温かみがありつつも爽やかな風を感じられるような、心地よい空間を実現しました。

また、待合スペースをラウンジ形式にすることで、複数名での相談や窓口混雑時(将来的)には職員がテーブルに出向き、対面での相談が可能になるなど、相談機能を充実させています。

※バイオフィリックデザイン=自然要素を空間に取り入れることで、心理的、身体的な健康をサポートし、快適さを向上させることを目的としたデザイン



オカムラHPでも
ご覧いただけます



神奈川県 愛川町 高齢介護課・地域包括支援センター 様

住民サービス向上と職員のWell-beingの両立

令和 6 年度

オフィス改革

窓口改善

新庁舎

Topics



上下昇降カウンター(座位対応時)

車いす利用者など、来庁者それぞれの使いやすさ高さに調整することが可能。



上下昇降カウンター(立位対応時)

立ち座りの動作に負担のある方、座り姿勢が困難な方には、高さを調整し相談対応できる。



相談コーナー

プライバシーに配慮した相談などに対応する、吸音パネルで囲まれた相談コーナー。程よい籠り感もあり、ソファ仕様にする事で、複数名での相談も可能。



ふれあいラウンジ

待合スペースをラウンジ化することで、複数名での相談や窓口混雑時には、職員がテーブルに向き相談対応も可能。対面相談機能を充実させ、相談の多様化に対応。



執務室

脇机を廃止したワゴンレス運用、課長席を含めたグループアドレスを導入することで、整理整頓の意識が定着し、退庁時にはクリーンデスクが実践されている。



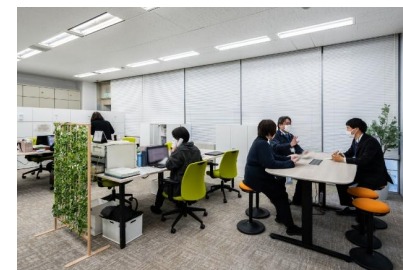
執務室

窓口カウンターと執務デスクの間にグリーンパネルを設け、来庁者・職員双方のプライバシーやセキュリティに配慮。



上下昇降テーブル

場所を移動することなく、声掛けによりすぐに職員が集まることができ、短時間の打ち合わせや作業スペースとして活用。



上下昇降テーブル

長時間の打ち合わせや協議の場合には高さを低く設定し、通常の打ち合わせテーブルとして利用。



執務席

ユニバーサルレイアウトとし、一人当たりW1200D600の机上スペース、肘付椅子を、課長を含め共通仕様としている。



モバイルロッカー・モバイルバック

ワゴンレスの運用とし、個人書類や荷物などはロッカーに収納。執務中は、モバイルバックを自席へ持ち出し利用する。



オフィス緑化

執務空間に積極的にグリーンを取り入れることで、ストレスの緩和とリラックス効果をもたらす。



プリンター・文房具集約

吸音効果のあるパネルを採用し、出力音などの緩和に配慮。また、個別での文房具保持を最小限にし、共通利用することで費用の削減につなげる。